

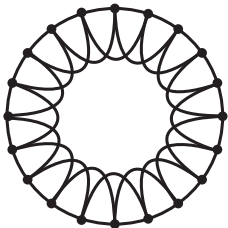
Process 1 / Conversation

与件

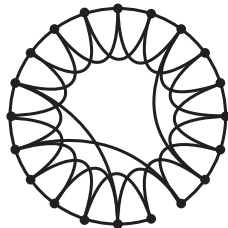
「ネットワーク型の空間」を実現させたい

部屋の機能よりも、とにかく前代未聞の「ネットワーク型の空間」を実現させること、それが与件だった。

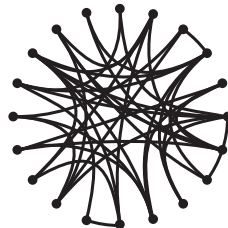
Regular

 $p = 0$

Small-world



Random

 $p = 1$

Increasing randomness

建築としての実現が目指されたのはネットワークの概念「Small-world-network」。1998年に複雑ネットワークの研究者であるダンカン・ワッツとスティヴン・ストロガッツが発見した、「短い距離」と「長い距離」が共存し、多様性と秩序のバランスがよい自然界のネットワーク構造の図式。この構造は、インターネットや、人体の細胞などのあらゆる自然界のネットワークに普遍的に見出されるものであるといわれている。

柄沢祐輔さんと、大学で「ネットワーク哲学」を教える建主は、このダイアグラムから「短い距離」と「長い距離」の共存という要素を抽出し、建築として「ネットワーク型の空間」の実現を目指した。

【家族構成】 男性1人

「Small-world-network」の概念を表すダイアグラム。秩序ある規則 (Regular) と多様性のあるランダム (Random) という両極端なネットワークの中間のモデルである。「Regular」は最も近い頂点同士が結ばれる規則的なもので、「Random」はランダムに各頂点をつなぎかえたも

の。それらに対し、真ん中の「Small-world」では、一定の確率 (p) で「Random」のように各頂点をつなぎかえ、その連の確率 ($1-p$) で「Regular」のように近い頂点を結びつけている。この秩序とランダム性がバランスを保った状態が「Small-world-network」である。

設計依頼のきっかけとなった過去の作品



「villa kanousan」

2009

「ネットワーク型の空間」の実現を目指したもの。「s-house」のマスに対し、ヴォイドによるネットワーク構造を再現。



「中心が移動し続ける都市」

2009

格差が生じたとき、肥大化する前に都市の中心が移動する都市計画のコンセプトを表現したインスタレーション。

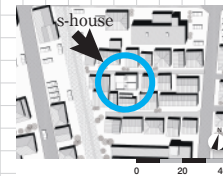


「済陽市方城地区計画」

2009

フィボナッチ級数を用いて地下動線を立体的に錯綜させる都市計画。上記のインスタレーションを応用したものの。

写真提供：柄沢祐輔建築設計事務所



配置図
設計依頼後、建主と建築家とで一緒に探した土地。密集地の袋小路のため、周囲からの視線はさえぎられている立地である。



スキップフロアが南側と北側とでずれて積層している。そのため、視覚的に「短い距離」でも、動線としては「長い距離」になることがある。

土地概要

所在地	埼玉県さいたま市大宮区
地域地区	第二種住居地域
道路幅員	北4.0m
敷地面積	89.46㎡
備考	土地購入前に依頼